

# 鹿野街道活性化構想策定支援事業

主任研究員 倉持裕彌

## 1. 事業背景

鳥取市内には3つの街道があり、そのうち鹿野街道は、江戸時代にもっとも栄えた街道として知られている。現在はほかの2つの街道に比べ、アーケードもなく小売りの店舗も少ないため、どちらかというと住宅地に近い。かつては因幡の台所、と呼ばれるほど、飲食関連の店舗でにぎわっていたという。

その鹿野街道は、いくつかの小売りが連なり、一応商店街という名前を持っているが、商店街振興組合はない。代わりに鹿野街道筋振興会という任意団体がある。鹿野街道周辺の事業主によって構成され、街道周辺の活性化の担い手となっていた。彼らは3年前からまちづくり関連の補助金を活用して「鹿野街道まつり」を主催してきたが、補助金は限定的であるため、祭りの継続のためには、補助によらない仕組みを構築する必要があった。

そこで、彼らは祭りの継続も含め、鹿野街道を活性化していくための組織や仕組みの検討に取り掛かった。連携事業は、アンケート調査を中心に、検討のための資料収集を支援することとした。この動きは、鳥取市中心市街地活性化基本計画にとっても重要であるため、中心市街地活性化協議会も協議を進める事務方としてサポートすることとなった。

## 2. 事業内容

本事業は現在も継続中である。そのためここでは2012年1月までの事業内容を記す。

まず、鹿野街道の活性化を検討するために鳥取市中心市街地活性化協議会事務局の支援を受け、委員会を立ち上げた。これは、鳥取市の3街道のうち、智頭、若桜については中心市街地活性化基本計画に基づいて事業を実施してきていることに対し、鹿野街道が未着手だったこと、鹿野街道筋振興会も鳥取市の中心市街地活性化に貢献する機運が高まってきたことから実現した。

この委員会では、鹿野街道祭りで実施した来場者アンケートや、1月現在実施中の鹿野街道近隣住民向けアンケート調査に取り組んだほか、振興会の組織上の課題を洗い出し、普段何気なく使っている集会場などの資産についての詳細を調査した。また、祭りの開催に合わせ、文語体で書かれた鹿野街道商店街の過去の記述を現代語に訳し、その内容を展示した。以下に、祭りの開催に合わせて行ったアンケート結果の一部を掲載する。

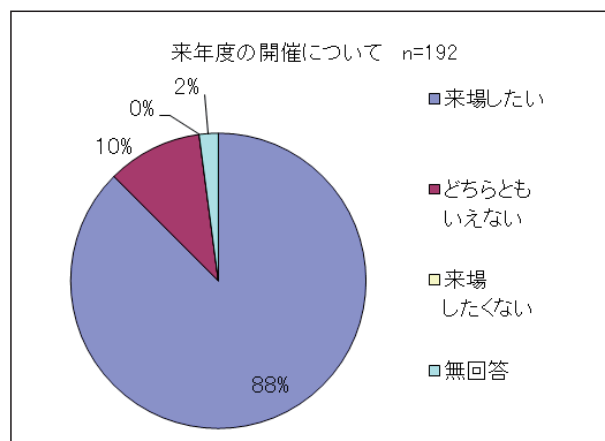
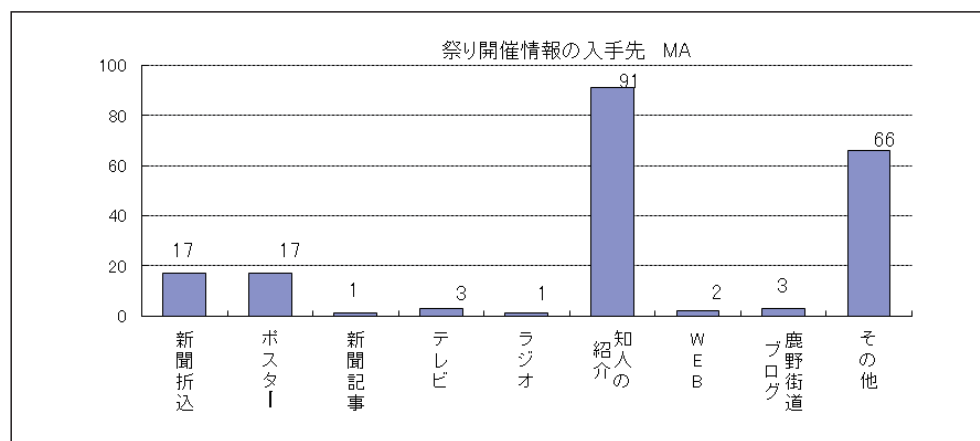


図-1 来年度の開催について



図－２ 祭りの開催情報の入手先について

図－１については、参加者の満足度が高い祭りであることを示している。また、図－２をみると、祭りの開催情報は「知人の紹介」が多い。「その他」の中では、「学校 (8)」という回答が目立った。鹿野街道祭りは、地元の人参加が多い祭りという評判があるが、それを裏付ける結果とも受け取れる。

### 3. 事業評価

この事業に対する評価はまだ定まっていないが、これまでのところ、いくつかの明らかな事業効果を確認することができる。

代表的なところでは、委員会での議論を通して、当初不明瞭であった鹿野街道筋振興会の考える活性化や鹿野街道の将来像が、徐々に明確になってきたことである。漠然とはしていたが、活性化にむけてモチベーションを上げていたところに、改めて活性化の具体性を問うような議論は熱を冷ましてしまう危惧もあったが、むしろ積極的な意見交換や情報共有につなげることができている。しかしながら、委員がそれぞれ多忙であることと、この明確化する作業に思いのほか時間を取られたため、当初のスケジュール通りには事業を進めることができていない。

このほか、鹿野街道筋振興会の内部でのコミュニケーションが活発になったことや、鹿野街道の活性化事業が鳥取市の中心市街地活性化事業の一部を形成し、一体感のある活性化にむけた土壌が整ったことなども効果である。なにより、現在作成中であるが、鹿野街道の活性化構想が、住民の意識を元に地元の担い手によって作成され、今後の活性化のよりどころとなるツールが生まれることが大きな効果である。